

片坂バイパス開通後は

地域連携で活動強化を



なかじま いちろう 議員
中島 一郎

と、対前月比で2割〜4割の来客数及び売り上げのアップが報告されている。

この機会を捉えて、10月1日より商工会、NPO砂浜美術館、観光ネットワークと町を含めて、一つなぐプロジェクト黒潮町委員会を立ち上げ、隣接の四万十町や県と共

に将来的な高速道路、四国8の字ネットワークの整備促進も含めて、より地元地域での賑わい効果を高め、地域同士での連携を一層強化していく活動を開始した。

答 大西町長

開通により交流人口の拡大に期待しているところである。

今後予定されている四万十中央から西の連結そして佐賀ICまでの延伸になればはるかに大きな終点効果が見込まれる。

問 11月17日に待望の片坂バイパスが開通した。幡多路へのアクセス向上はもちろんだが、観光振興や南海トラフ地震への機能効果などに期待が持たれているが、行政の立場として地域に活力を生む企画提案を行うことで、期待も高まり一層効果を生むことになるが、打つべき戦略はあるか。

答 今西海洋森林課長

開通後の町内の主な関連施設での速報値を見る



片坂バイパス出入口付近

終点効果を全域にしていくためには、準備期間も必要となってくる。

そのために商工部門を佐賀支所へ移して、延伸効果を佐賀地域で、しっかりと最大限吸収できるように仕組みづくりに取り組んでいる。

水産業振興

放流・漁場造成の整備は

前向きな
予算化で

問 3年前からアマダイの種苗放流やイセエビを対象にした漁場造成（投石）を計画し沿岸漁業再生に取り組んできたが、この実績と来年度以降の予算化を問う。

答 今西海洋森林課長

平成28、29年度にアマダイ種苗一万余尾を放流しているが、商品サイズまで成長するには、一定の期間が必要でありながらも資源が回復傾向にあることから、来年度も放流

の方向で検討している。イセエビ対象の投石については、製鉄企業との協力で効果検証を実施しているが、不漁時期と重なったことから全体の漁獲量は把握できていない。今年度の実績だけで費用対効果を検証するのではなく、漁業者の意見を聞き、方向性を見い出す。



漁場造成（投石）事業

地域活動

旧佐賀保育所の改修は

国の許認可
時間が必要

問 旧佐賀保育所の利用は、昨年6月から教育委員会や関係機関と協議を重ねた結果、あったかふれあいセンター、図書館、放課後子ども教室、地域の集会所的なスペース、防災に特化した京都大学のサテライト事務室などの利用が決定された。

6月議会で予算化もされたが、いまだ工事発注に至っていない、理由は、

答 矢野地域住民課長

この施設は国からの補助金投入と起債の借り入れをしているため、補助金返還を回避する手続きは済ませたが、承認までには時間を要している。

このため工事発注については、繰越明許、または平成31年度当初予算に再計上することも考えられる。

【その他の質問】

・地籍調査事業について
・社会福祉行政について